

2022年11月21日

関係各位

野村證券株式会社

「Russell/Nomura日本株インデックス」の年次銘柄入替について

Russell/Nomura Total Marketインデックスは除外65銘柄、組入れ72銘柄

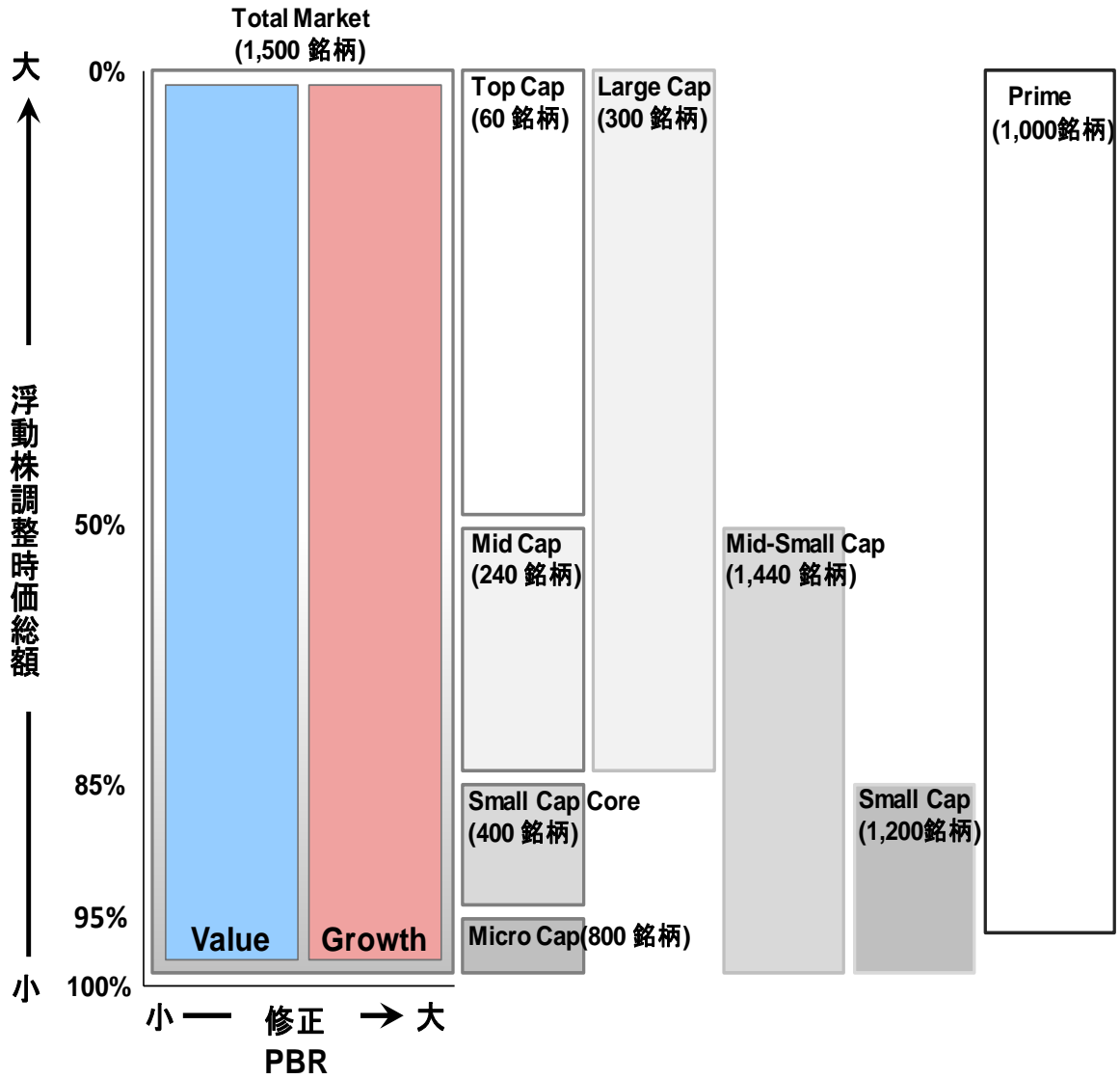
野村證券とFTSE Russellはこのたび、Russell/Nomura日本株インデックス・シリーズの定期（年次）銘柄入替を行いました。全上場銘柄の時価総額（浮動株調整済み）の98%をカバーするRussell/Nomura Total Marketインデックスの構成銘柄数は1,500銘柄となりました。構成銘柄の詳細は、野村證券金融工学研究センターのウェブサイト（<http://qr.nomura.co.jp/jp/index.html>）をご覧ください。

今回の入替でRussell/Nomura Total Marketインデックスは65銘柄が除外、72銘柄が組入れられ、入替後の構成銘柄数は1,500銘柄、時価総額は約471兆円となりました（2022年10月14日時点、時価総額は浮動株調整済み）。

スタイル別インデックスの定期入替後構成銘柄数は、Russell/Nomura Large Capインデックスは300銘柄、Large CapインデックスのサブインデックスであるTop Capインデックスは60銘柄、Mid Capインデックスは240銘柄と、前回から変動はありませんでした。Russell/Nomura Total Marketインデックスの時価総額の下位15%で構成されるSmall CapインデックスのサブインデックスであるSmall Cap Coreインデックス、Micro Capインデックスの構成銘柄数も前回と変わらず、それぞれ400銘柄と800銘柄になりました（図表1）。

バリュー、グロースインデックスは、Total Valueインデックスで86銘柄が除外、82銘柄を組入れ、Total Growthインデックスでは93銘柄を除外、126銘柄が組入れられました。その結果、時価総額回転率（片側）はTotal Valueインデックスが11.2%、Total Growthインデックスが11.4%となりました（図表2）。業種別の特徴としては、「情報・通信業」セクターのグロースへの比重が増加し、バリューへの比重が減少しました。大型株では「電気機器」セクターでグロースへの比重が減少し、「陸運業」セクターでグロースの比重が増加しました。一方、小型株では、「電気機器」セクターでバリューへの比重が増加し、「陸運業」「小売業」セクターの比重はバリュー、グロースともに減少しました（図表3）。

<図表1 Russell/Nomura日本株インデックスの体系>



注: 銘柄数は2022年11月21日定期入替後

＜図表2 2022年11月定期入替サマリー＞

	採用銘柄数					時価構成比率			回転率 (片側)
	入替前	入替後	差	OUT	IN	入替前	入替後	差	
Total	1,493	1,500	7	65	72	100.00%	100.00%	-	1.3%
Value	1,107	1,103	-4	86	82	52.57%	47.78%	-4.79%	11.2%
Growth	743	776	33	93	126	47.43%	52.22%	4.79%	11.4%
Large	300	300	0	20	20	84.63%	84.96%	0.33%	2.3%
Value	194	201	7	20	27	42.40%	38.83%	-3.57%	12.4%
Growth	195	187	-8	30	22	42.23%	46.13%	3.90%	12.0%
Small	1,193	1,200	7	84	91	15.37%	15.04%	-0.33%	9.8%
Value	913	902	-11	89	78	10.16%	8.95%	-1.21%	16.4%
Growth	548	589	41	85	126	5.21%	6.09%	0.88%	21.3%
Prime	992	1,000	8	24	32	97.83%	97.91%	0.08%	1.3%
Value	723	719	-4	46	42	51.07%	46.39%	-4.67%	11.3%
Growth	527	544	17	60	77	46.76%	51.51%	4.75%	11.5%

注: 採用銘柄は定期入替日時点。時価構成比率の計算は2022年10月14日の株価による。
 回転率(片側)は $\Sigma | \text{入替前時価比率} - \text{入替後時価比率} | / 2$ の式により算出。

＜図表3 Russell/Nomuraスタイル指数の業種別時価総額ウエイトの増減＞

	Total Value	Total Growth	Large Value	Large Growth	Small Value	Small Growth
水産・農林業	0.0%	0.0%	-	-	-0.1%	0.3%
鉱業	0.1%	-	0.1%	-	0.0%	-
建設業	0.3%	0.0%	0.5%	-0.1%	-0.6%	0.3%
食料品	0.0%	-0.1%	-0.1%	0.1%	0.3%	-1.3%
繊維製品	0.0%	0.0%	0.0%	-	0.1%	0.0%
パルプ・紙	0.0%	0.0%	0.0%	-	0.2%	-0.1%
化学	1.0%	-1.4%	1.1%	-1.6%	0.8%	0.5%
医薬品	0.0%	-0.6%	0.0%	-0.6%	0.2%	-0.3%
石油・石炭製品	0.1%	-	0.1%	-	0.1%	-
ゴム製品	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	-
ガラス・土石製品	0.1%	0.0%	0.3%	0.0%	-0.5%	-0.2%
鉄鋼	0.1%	-0.1%	0.0%	-	0.2%	0.0%
非鉄金属	0.1%	0.0%	0.2%	-	-0.3%	0.3%
金属製品	0.3%	-0.2%	0.3%	-0.2%	0.2%	-0.1%
機械	0.8%	-0.9%	0.9%	-1.1%	0.6%	0.9%
電気機器	0.7%	-2.1%	0.5%	-2.2%	1.6%	0.0%
輸送用機器	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.2%	-0.1%
精密機器	0.0%	-0.4%	0.0%	-0.4%	0.1%	-0.1%
その他製品	0.0%	-0.4%	0.1%	-0.5%	-0.1%	1.0%
電気・ガス業	0.2%	0.0%	0.3%	-	0.0%	0.0%
陸運業	-1.0%	1.3%	-0.7%	1.6%	-2.3%	-1.3%
海運業	0.3%	-0.2%	0.4%	-	0.0%	0.0%
空運業	-0.5%	0.6%	-0.7%	0.7%	-	-
倉庫・運輸関連業	0.0%	0.0%	-	-	-0.5%	0.1%
情報・通信業	-3.2%	2.3%	-3.8%	2.2%	-0.4%	2.4%
卸売業	0.2%	0.4%	0.1%	0.5%	0.8%	-0.4%
小売業	-0.9%	0.6%	-0.6%	0.7%	-2.1%	-0.9%
銀行業	0.9%	-	1.0%	-	0.5%	-
証券、商品先物取引業	0.2%	0.0%	0.2%	-	0.1%	-0.2%
保険業	-0.6%	1.0%	-0.8%	-	-	0.0%
その他金融業	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%
不動産業	0.0%	0.2%	0.0%	0.3%	-0.2%	-0.8%
サービス業	0.0%	-0.2%	-0.1%	-0.3%	0.4%	-0.3%

注: 2022年10月14日の株価による。

赤のシャドウはウエイトが1パーセントポイント以上増加、グレーのシャドウはウエイトが1パーセントポイント以上減少したことを表す。2パーセントポイント以上の変化を強調している。

Russell/Nomura Primeインデックスは除外銘柄数が24銘柄、組入銘柄数が32銘柄

Russell/Nomura Primeインデックスは、機関投資家によるパッシブ運用のベンチマークとして開発されたインデックスであり、Russell/Nomura Total Marketインデックスの時価総額上位1,000銘柄で構成されるサブインデックスです。2022年定期入替で24銘柄が除外され、32銘柄が組入れられました。定期入替後のPrimeインデックスの時価総額は約461兆円(2022年10月14日時点。時価総額は浮動株調整済み)、回転率(片側)は1.3%となりました(図表2)。

今回の定期入替では13銘柄が初めてRussell/Nomura Primeインデックスに採用されました。業種別で見ると、「情報・通信業」のセクターが4銘柄、続いて「サービス業」のセクターが3銘柄となりました。その他に「卸売業」、「精密機器」、「銀行業」、「その他金融業」、「不動産業」のセクターが採用されました。

Russell/Nomura 日本株インデックスについて

1995年、野村証券とFTSE Russellは、様々な投資方針に基づいた運用を測定するツールとして「Russell/Nomura日本株インデックス」を共同開発しました。当インデックスは、日本市場の上場株式を対象にした浮動株時価総額加重方式の株価指数です。浮動株調整時価総額上位98%の銘柄で構成されるRussell/Nomura Total Marketインデックスをはじめ、投資スタイル別のサブインデックスが公表されています。当インデックスでは、株式市場の変化を反映させるため、年一回、構成銘柄の定期銘柄入替を実施しています(2022年は11月21日(11月18日引け後)に定期銘柄入替を実施)。構成銘柄は10月15日(休日の場合は前営業日)の浮動株調整時価総額によって決定されます。

定期銘柄入替後に合併・買収やその他の事由によって銘柄が除外される場合、次回の定期銘柄入替まで補充されることはなく、構成銘柄数は減少します。ただし、新規上場したLarge Cap相当の銘柄は臨時入替で組入れられます。

<インデックスに関するお問い合わせ>

野村証券(株) 金融工学研究センター

インデックス業務室

E-mail: idx_mgr@jp.nomura.com

以上